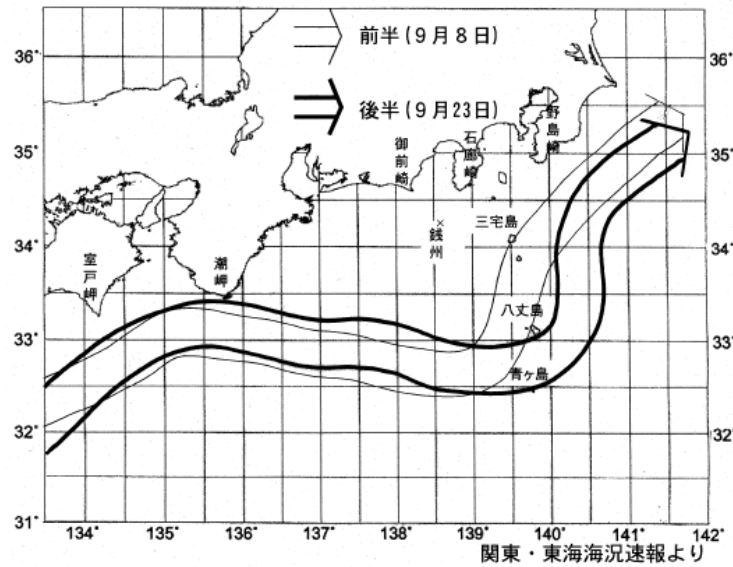


漁海況月報

平成 28 年 9 月 1 日

No. 9 ~9 月 30 日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



9 月定地水温の旬平均値 () (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津
上旬	26.1	27.2	26.3	26.7	26.1	26.8
	1.3	2.7	1.8	0.8	0.4	1.4
中旬	25.3	26.5	25.4	26.1	25.4	25.7
	1.1	2.5	1.2	1.0	0.5	1.3
下旬	25.3	26.5	25.4	26.1	25.4	25.7
	1.1	2.1	1.4	0.6	0.4	0.9
月	25.2	26.4	25.5	25.9	25.2	25.6
	1.2	2.4	1.5	0.8	0.4	1.2

*地頭方の水温観測は終了しました。

【黒潮流路】

9 月上旬は B 型で、遠州灘沖 32° 30' N を東南東に進み、八丈島の北を通過した。中旬も B 型で遠州灘沖 32° 50' N を東南東に進み、八丈島付近を通過した。下旬も遠州灘沖 32° 50' N を東進し八丈島付近を通過したが、遠州灘沖小蛇行の東進によって B 型から C 型へと移行しつつあった。

【県下沿岸域】

上旬は稲取で「極めて高め」、下田で「高め」、伊東、雲見、焼津で「やや高め」、沼津で「平年並み」

であった。中旬は稲取で「極めて高め」、他の観測点では「やや高め」となった。下旬は稲取で「高め」、沼津を除く他の観測点で「やや高め」、沼津で「平年並み」となった。

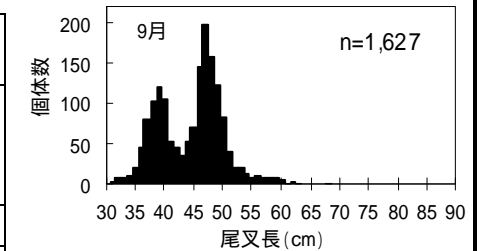
【竿釣カツオ】

9 月の県内主要 5 港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオの水揚量は 100 トンで、前年同期と同量だった。平均単価は 522 円/kg で前年同期を上回った。

漁場は 32~34° N、139~140° E の青ヶ島から三宅島や銭洲など伊豆諸島北部にかけての海域で、魚体の大きさは銘柄「小」(尾叉長 47cm モード)を主体に、前月と比べて尾叉長 40cm 以下の小型個体の割合が増加した。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要 5 港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
28 年 9 月上旬	31	12	2.6	539
中旬	43	16	2.7	480
下旬	26	10	2.7	570
28 年 9 月計	100	38	2.6	522
27 年 9 月計	100	30	3.3	447
26 年 9 月計	80	48	1.7	463



御前崎港における測定結果

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網 7 か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は 287 トンで前年の同漁場の水揚量(239 トン)の 1.2 倍であった。また、1 か統あたりの水揚量は、41.0 トンで前年(34.2 トン)の 1.2 倍、平年(昭和 57~平成 27 年の平均 58.9 トン)の 70% であった。水揚量の多い漁場は、古網漁場(67.9 トン、さば類・ヤマトカマス・マルソウダ)、次いで北川漁場(63.7 トン、さば類・ヤマトカマス・オアカムロ)であった。

多獲された魚種の水揚量は次頁(表)の通りで、さば類は水揚量 168 トンで前年比 2.3 倍、平年比 1.4 倍と、好調な漁獲であった。さば類はゴマサバ主体で、漁獲サイズは尾叉長 30~35cm 主体に、20~25cm も混じった。ヤマトカマスは水揚量 24.5 トンで、前年比 35%、平年比 90% であった。マルソウダは水揚量 20.6 トンで前年比 1.0 倍、平年比 38% であった。ウルメイワシは水揚量 11.5 トンで前年比 5.4 倍、平年比 1.9 倍と、好調な漁獲であった。モロは水揚量 9.8 トンで前年比 1.2 倍、平年比 81% であった。

多獲された魚種の主な漁場は次頁(表)の通りで、さば類は古網漁場が 28% (45.8 トン)、北川漁場が 25% (41.8 トン)、ヤマトカマスは北川漁場が 35% (8.6 トン)、古網漁場が 25% (5.8 トン)、マルソウダは伊豆山漁場が 24% (4.9 トン)、古網漁場が 20% (4.0 トン)、ウルメイワシは川奈漁場が 76% (8.7 トン)、伊豆山漁場が 21% (2.5 トン)、モロは北川漁場が 27% (2.6 トン)、富戸漁場が 25% (2.4 トン) を占めた。

*統計数値は表示単位未満を四捨五入しているため、前年比及び平年比の倍率が表示と一致しない場合がある。

(表) 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	168.0	2.3	1.4	古網、北川、伊豆山
ヤマトカマス	24.5	0.4	0.9	北川、古網、伊豆山
マルソウダ	20.6	1.0	0.4	伊豆山、古網、赤沢
ウルメイワシ	11.5	5.4	1.9	川奈、伊豆山
モロ	9.8	1.2	0.8	北川、富戸、赤沢

[サバ 棒 受 網]

小川港にはゴマサバが419トン(前年同月比113%)水揚げされ、1隻あたり水揚量は19.9トン(前年同月16.8トン)であった。1kgあたり平均単価は82円で前年同月(109円)を下回ったが、前月(82円)と同額であった。マサバの水揚げはなかった。

棒受網の漁場は中旬までは銭洲、下旬は三宅に形成された。漁獲されたゴマサバの体長組成は24cmと31cmにモードを持つ2峰型で、0歳魚と3歳魚主体であった。

小川港 さば類(棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
28年9月上旬		102	3	6		17.0		97	銭洲
中旬		96	2	7		13.7		107	銭洲
下旬		221	3	8		27.6		65	三宅
28年9月計		419	8	21		19.9		82	銭洲、三宅
27年9月計		370	10	22		16.8		109	三宅、三本
26年9月計		777	11	27		28.8		93	銭洲、中の瀬

*水揚量については、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

[シ ラ ス 船 曳 網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が182kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が275kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は242kgと前年同期(223kg)の109%、平年同期(過去5か年平均:343kg)の70%と前年同期を上回り、平年同期を下回った。また、総水揚量は340.5トンで前年同期(264.5トン)の129%、平年同期(567.3トン)の60%と、前年同期を上回り、平年同期を下回った。平均単価は980円/kgと、前年同期(942円/kg)と平年同期(724円/kg)を上回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新 居	36.1	10	128	282	845
舞 阪	108.2	10	392	276	935
福 田	69.7	10	237	294	872
御前崎	33.5	14	142	236	896
吉 田	44.6	12	225	198	1,085
静 岡	48.3	13	286	169	1,296
平成28年9月計	340.5	69	1,410	242	980
平成27年9月計	264.5	58	1,189	223	942
平成26年9月計	368.0	85	1,773	208	1,059

*各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

*平年同期:過去5か年(平成23~27年)平均値

[ま き 網 (い わ し 類)]

マイワシの水揚げは、小川港では15.5トンで、前年同期(9.0トン)の173%、平年同期(24.1トン)の65%であった。沼津港では144.7トンで、前年同期(77.5トン)の187%、平年同期(116.8トン)の124%であった。静岡港では水揚げは無かった(前年同期、平年同期の水揚げもなかった)。伊東港では33.9トンで、前年同期(31.5トン)の108%、平年同期(41.5トン)の82%であった。カタクチイワシの水揚げは沼津港では380.0トン、伊東港では12.3トン、小川港と静岡港では無かった。

なお、伊豆半島東岸の大型定置網8か統の漁獲量はマイワシが1.9トン、カタクチイワシが5.1トンであった。

*平年同期:過去5か年(平成23年~27年)平均値

[調 査 船 駿 河 丸 の 動 向]

9月5日	ドック回航	(1日間)
9月12日 ~ 9月15日	地先定線観測及びサクラエビ卵調査	(4日間)
9月26日 ~ 9月27日	キンメダイ食害調査	(2日間)
9月28日 ~ 9月29日	サクラエビ調査	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

